

<実践報告>

キャリア教育の理論と方法実践報告

仲 盛 康 治^{*}

Career education theory and method practice report

Yasuharu NAKAMORI^{*}

要 約

講義方法として前半は、国や県の施策や取組の説明や実践事例の紹介、後半は、「総合的な探究活動」を意識したグループ活動、発表等を通してこれから求められる指導支援方法の育成を図った。本県の児童生徒の重要課題の一つ「伝える力」の育成が重要なポイントと位置づけ、授業のルールを「自分や他人の意見を否定しない」「何でも言ってみる」とし、それを定着することで安心安全な学び場、支持的風土の醸成が図られるものと確信して実践した。

キーワード：キャリア教育

1 はじめに

「進む道があれば、心は折れない！」

昨今、社会は、少子高齢化問題で社会保障や生活水準維持が厳しくなることが予想され、生産性の向上、多様性や共生の生き方が求められる時代に突入し、様々な取組がなされている。教育界においても同様であるが、加えて教員志望者の減少等憂慮すべき状況にある。そこで私は教職退職後、これまでの恩返しとして、教育界の人材育成の手伝いを自分ができる範囲で挑戦して行きたいと考えている。現任教職員のサポートはもちろん、何よりも教育の道を志す学生の後押しこそ、私の使命のように感じている。「進む道があれば、心は折れない！」、教職の最終年まで様々な事で悩んだ時、身近な方から捧げられ、私自身救われたれた言葉であった。この言葉を忘れず、引き続き、「進む道」探しに邁進したい。

その実践の一つとして沖縄大学の「教職実践研究」の投稿・執筆に挑戦するに至った。

「キャリア教育の理論と方法」については、講義方法として前半は、国や県の施策や取組

の説明や実践事例を紹介した。後半は、「総合的な探究活動」を意識したグループ活動、発表等を通してこれから求められる指導支援方法の育成を図った。本県の児童生徒の重要な課題の一つ「伝える力」の育成が重要なポイントと位置づけ、授業のルールを「自分や他人の意見を否定しない」「何でも言ってみる」とし、それを定着することで安心安全な学び場、支持的風土の醸成が図られるものと確信して実践した。

この実践報告が少しでも教員養成に貢献できれば幸である。

2 これからの時代に求められる人材

令和5年3月に示された中教審の「次期教育振興基本計画」のコンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つがあげられた。また、令和4年12月には生徒指導提要在改訂された。その背景にあるのは、社会環境の激変である。

「少子高齢化での社会形成」「災害や感染症

^{*}沖縄大学非常勤講師 (Part-time Lecture at Okinawa University)

等の不測の社会的危機との遭遇」「高度情報化社会での知識の刷新」「ICT能力の修得、外国の人々を含め多様な他者との共生と協働」等、乗り越えていくべき課題が山積しており、予測困難な時代をたくましく生きていく人材育成が求められている。その「人材育成」のキーワードとしてあげられるものの中に、「主体性」「リーダーシップ」「創造力」「論理的思考力」「表現力」「チームワーク」「情報活用能力」「試行錯誤を続ける力」「課題発見・解決力」「人を動かし巻き込む力」「0から価値を生み出す力」「感情をコントロールする力」等がある。

今年度前期に、「キャリア教育」を担当するに当たり、先述の「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」より、利他性の発揮「誰かの笑顔のために、自ら気づき考え行動する人材育成」、生徒指導提要で示された、生徒指導4つのポイントに焦点を当て講義を実践することにした。

3 講義のテーマ及び概要

「キャリア教育の理論と方法」

○テーマ

- (1) 本県の学校教育の施策や国の次期教育振興基本計画を理解し、今後必要な教育を推進できる資質を向上させる。
- (2) キャリア教育の必要性和教育課程におけるキャリア教育の位置づけを理解している。
- (3) 学校におけるキャリア教育の考え方や指導の実際を理解している。
- (4) 個別の生徒の夢実現を目指すキャリア教育の指導方法を理解している。

○授業概要

次期教育振興基本計画の策定に向けた審議経過を基に、今後の教育政策の遂行、今後5年間の目標と基本施策から、キャリア教育に関連する事柄を理解する。さらにこれまで特色ある取組をしている学校の事例を実践し子供目線での学びあい、高めあう集団づくりの在り方を習得する。「学ぶことー働くこと生きること」の意味を理解し、自立した社会人としての基礎となる資質・能力を育む。



4 実践計画

(1) シラバス

第1回：キャリア教育ガイダンス

(シラバス, 学習集団づくり, 約束事, 振り返り等確認)

○次期教育振興基本計画の審議経過説明及び今後の本県のキャリア教育について

○キャリア教育を学ぶ前に

- ・学びの集団づくりエクササイズ (有名人にインタビュー)
- ・講師の紹介 伝説の学級「弟に学ぶ」
- ・キャリアパスポートを実際にやってみる

第2回：沖縄県のキャリア教育について1 (義務教育課ポータルサイト紹介)

○次期教育振興基本計画、本県のキャリア教育のキーワードおよび説明

- ・キャリアパスポートの目的、役割、狙い等を理解する
- ・グループワーク 互いのキャリアパスポートの面談～シェア
- ・4つの能力、基礎的汎用的能力を理解する

第3回：沖縄県のキャリア教育について2 (義務教育課ポータルサイト活用)

○県教育長挨拶から読み取る。

- ・沖縄教育DX, 県キャリア教育基本方針
- ・教員採用試験頻出キーワードの実践演習
- ・キョウイクを別の漢字で表現して教職の夢を開いていこう

第4回：沖縄県のキャリア教育について3 (義務教育課ポータルサイト活用)

○県教育長挨拶重要項目を読み取る。

- 沖縄県キャリア教育応援サイト、各項目の紹介と説明
- ・キャリア教育通信
 - ・自学自習の取組 県内小中学校事例 (各自検索後, 1校の視聴)
 - ・キャリア教育解説動画 その1 視聴
 - ・学級活動のワークショップ (グループで学級漢字を創り発表まで 1)
- 第5回：沖縄県のキャリア教育について4 (県キャリア教育応援サイト活用)
- ・学級活動のワークショップ (グループで学級漢字を創り発表まで 2)
 - ・キャリア教育解説動画 その2 視聴
- 第6回：沖縄県のキャリア教育について5 (県キャリア教育応援サイト活用)
- ・キャリア教育リーフレットシリーズ
 - ・中高キャリア地区講座 首里東高視聴 15分
 - ・校内研修ワークショップ
- 第7回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 棚倉小, 尾山台学校事例視聴
- 探究学習(1)
- グループワーク ステップ① 話し合い活動
- 第8回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 富士中学校実践事例 視聴
- 探究学習(2)
- グループワーク ステップ② アイディアの企画
- 第9回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 探究学習(3)
- グループワーク ステップ③ プレゼンテーションに挑戦 レベル1
- 第10回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 探究学習(4)
- グループワーク ステップ④ 誰かの笑顔のために1 (困っている人を思う)

- 第11回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 探究学習(5)
- グループワーク ステップ⑤ 誰かの笑顔のために2 (困っている人を助ける)
- 第12回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 探究学習(6)
- グループワーク ステップ⑥ ペア班でプレゼンテーションに挑戦 レベル1
- 第13回：探究学習にチャレンジ ⑥スペシャル (2018～2020実践した事例を体験してみよう)
- 探究学習(6)
- グループワーク⑥スペシャル ペア班プレゼンに挑戦 レベル2 修正活動
- 第14回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践事例を体験してみよう)
- 探究活動(7)
- グループワーク ステップ⑦ プレゼンテーション レベル3 修正活動
- 第15回：探究学習にチャレンジ (2018～2020実践事例を体験してみよう)
- 探究活動(8)
- グループワーク ステップ⑧ 最終プレゼンテーション まとめ, 報告書提出

(2) 学生に対する評価

- ① 講義・演習中のレポート・ワークシート (30%)
- ② プレゼン力, ワークシート (50%)
- ③ 振り返り状況 (20%)

内容

- ① について
- ・キャリアパスポート
 - ・振り返りシート(ステップ1～最終)
- ② について
- ・各演習で活用したワークシート (グループでまとめて提出)
 - ・報告書 ※レポート (A4で提出・・・枚数は不問)

※内容については、これまで受講した

つまり4つの能力のこと (*基礎的・汎用的能力)

かかわる力

**人間関係形成
社会形成能力**

ふり返る力

**自己理解
自己管理能力**

やりぬく力

課題対応能力

みとおす力

**キャリアプランニング
能力**

「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」のことで、また、沖縄県ではこれらの能力のことを「かかわる力」、「ふり返る力」、「やりぬく力」、「みとおす力」として表しています。

新ワードを調べよう!

- ウェルビーイング
- Well-being: 新しい「ものさし」・コンセプト
経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めてとらえる
- 自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること

キャリアパスポートについて

- 2020年4月に全国の小学校と中学校、そして高等学校を対象として、キャリア・パスポートを導入することを文部科学省が決定し、スタートしました。
- キャリア・パスポートは、これまでの教育にはなかった「**自分の将来に対する計画を立てる**」というキャリアデザインを、教育現場に取り入れる手段と位置づけられています。

新ワードを調べよう

- VUCA

VUCA (ブーカ) とは、Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測困難な状況を意味します。

Volatility	変動性
Uncertainty	不確実性
Complexity	複雑性
Ambiguity	曖昧性

2回目 (抜粋)

このスクリーンショットは、文部科学省のウェブサイトから抜粋された「次期教育振興基本計画」に関するページです。主要な見出しとして「教育活動の質の向上と評価、改善の方向性」が示されています。また、「個人の成長」に関する目標や、OECD国際比較における日本の教育状況に関する分析も含まれています。

おすすめコンテンツ

沖縄県教育庁義務教育課ポータルサイト

義務教育課ポータルサイト

このスクリーンショットは、沖縄県教育庁義務教育課のポータルサイトのトップページを示しています。サイトの目的や提供しているサービスに関する情報が掲載されています。

出典：文部科学省，次期教育振興基本計画について (答申) 概要¹⁾

出典：沖縄県教育庁義務教育課ポータルサイト⁵⁾

新ワードを調べよう!

リカレント教育

VUCA

ウェルビーイング

- DX=デジタルトランスフォーメーション
- Society 5.0

できなかったことができるようになる喜びを与えよう!

- キャリア・パスポートに記載する内容は、児童や生徒が**日常生活で思った出来事等を内容に関係なく自由に記載する点が最大の特徴**
- 「算数で掛け算ができるようになりたい」
- 「楽器の演奏が好き」
- 自分の目標や好きな点といった具体的な内容の文章を羅列していきます
- 1年間書き留めた内容について改めて振り返りつつ、自分の力で考えます。
- 年齢や学年が上がるにつれ、キャリア・パスポートに記載される内容はより具体的になっていきます。

前回の振り返り 20分

「実際にやってみよう」例文

こんにちは、〇〇です。キャリアパスポートについてお話ししましょう。

「キャリア・パスポート」は、あなたの学校生活を振り返ったり見直しを立てたりするツールです。自分の学んだことを記録し、それを積み重ねていくことが、あなたの今後の人生をよりよくしていくための「道しるべ」になります。授業や学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの力を伸ばし、自分自身を成長させてください。それでは始めます。

1. 2人一組になって互いのキャリアパスポートを見ましょう。※アドバイザーとして!
2. 互いの3年間を振り返る。
①②③④簡単にメモOK
※相手の内容を理解する事がポイント
3. あなたが先生になったつもりでアドバイスしてみよう
4. あなたが親になったつもりでアドバイスしてみよう

基礎的汎用的能力とは？
キャリア教育によく出るワード

【汎用】はんよう

〔名〕(スル)いろいろの方面に広く用いること。

「同一規格の部品を汎用する」

汎→広くいきわたることを意味する

用→役立てることを意味する

それを組み合わせた言葉

凡庸(ぼんよう) 間違いやすい → 平凡なこと

- ・汎用性のある取組計画 = さまざまな方面で役立つ取組計画
- ・凡庸な取組計画 = 平凡でとれない取組計画

3回目(抜粋)

半嶺満教育長挨拶を読み解く

出典：沖縄県教育庁義務教育課ポータルサイト
ト県教育長あいさつ⁶⁾

新ワードを調べよう

- ・リカレント教育 → 学びなおし
- ・「リカレント (recurrent)」とは、「繰り返す」「循環する」という意味
- ・リカレント教育とは、社会に出た後も、再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。
- ・日本では、仕事を休まず学び直すスタイルもリカレント教育に含まれる。
- ・社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶため、「社会人の学び直し」とも呼ばれる。

教職教養「キャリア教育」
穴埋め問題に挑戦

今後の学校における

キャリア教育・職業教育の在り方について

はじめに

中央教育審議会は、平成20年12月、文部科学大臣から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の諮問を受け、総会直属の部会として、キャリア教育・職業教育特別部会を設置し、30回にわたる審議を重ね、各界から幅広く御意見をいただきつつ、ここに答申をとりまとめた。

学校教育と職業や人材育成との連関は、我が国において、時代の変遷の中で繰り返し議論されてきたように、非常に重要な課題である。特に近年、「若者の社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への移行」を巡る様々な課題が見受けられる。また、グローバル化や知識基盤社会の到来、就業構造・雇用慣行の変化等による、教育、雇用・労働を巡る新たな課題も生じている。

教職教養「キャリア教育」
穴埋め問題に挑戦

今後の学校における

キャリア教育・職業教育の在り方について

(答申)

これらの課題は、少子・高齢化の進展により将来的に大幅な労働力人口の減少が予測される中、労働生産性の維持・向上や、労働力の確保等の面から語られることが多いが、その根幹には、一人一人がより幸福な人生を送っていくことができるようにするためのもの、という教育や学習の本旨があることを忘れてはならない。

すなわち、人々が人生において、各々の希望やライフステージに応じて様々な学びの場を選択し、職業に必要な知識・技能を身に付け、その成果が評価され、職業生活の中で力を存分に発揮できるようにすることが重要であり、我が国は、学業生活と職業生活を交互にまたは同時に営むことができる生涯学習社会を、真に構築しなければならない。

4回目(抜粋)

出典：沖縄県教育庁義務教育課ポータルサイト⁵⁾

「キャリア教育通信」

県教育委員会のキャリア教育担当者が月1回程度発行する。令和2年度分、3年度分もストックされています。用語や県の方針などの具体的な紹介、県内でユニークな取組みをしている学校の事例など情報満載！

R5 キャリア教育の推進
児童生徒の「自立」に向けたキャリア教育を推進しましょう。

キャリア発達を促す授業 ～「独立した学習」の機会に向けて～

【キャリア・パスポート】の効果的な活用

自分の意見を押しつけ合う型
折り合いをつけて話し合って納得する型

「一致団結」に「輝」は合わない
君一人の学級じゃないだろう！

「致」を「輝」に変えて、二人が輝くって意味を持ってほしいんじゃない！「一致団結」

□この時お互いに意見を押し付け合うとケンカになる場合もあります。それでは目指したい学級の姿からは遠くなってしまいます。
逆に、
□少数派の意見でも、理由をしっかりときて、折り合いをつけて話し合うことで、より学級への想いが詰まった学級目標ができあがることもあります。

「自学自習の取組紹介」

県内の小中学校の実践事例。動画などでも詳しく紹介されている。これは、必見！！ 見てみよう！

■自学自習の取組紹介

名護市立浦添中学校の取組
11分36秒

名護市立浦添中学校の取組
7分34秒

名護市立浦添中学校の取組
7分42秒

話し合い活動6つのルール

- ①他人の発言を遮らないで最後まできちんと聞く
- ②話を聞くときには、話をしている人の目を見る
- ③話を聞くときには、他のことをしない
- ④議論が台無しになるようなことを言わない
- ⑤どのような意見であっても、間違いと決めつけない
- ⑥決まったことはみんなで協力して取り組む

■沖縄県キャリア教育の解説動画

キャリア教育の推進 10分14秒

「キャリア・パスポート」の進め方 11分10秒

四字熟語のアレンジVer.

素晴らしいことは みんなで **喜** び、
いけないことには みんなで **怒** り、
仲間の **哀** しむことの多い **楽** しい学級にしよう！

この四字熟語は、学級目標となる言葉と四字熟語で一つの合言葉をつくっています。

5～6回目（抜粋）

こんな場面ありませんか？
～学級目標を決めよう編～

私は「一致団結」がいいな
僕も同じ「一致団結」がいい
ほくは「輝」を使いたい

学級会でよくある場面を挙げながら学級会の進め方を確認したいと思います。学級目標を決めようとする場面です。
□「一致団結がいいな」
□多くの生徒も「一致団結がいい」と流れが出てきたときに
□「輝」の漢字を使いたいという意見が出てきたら、流れを乱したような雰囲気になりませんか。

発表の前に！生徒＆先生の目線で

目標
・グループで発表・・・発表者は任せます。
※ 担当教師になったつもりで、これは、困るパターン
・みんなが発表を拒む→慣れていないと大抵これ

●解決策① 声をそろえて！言ってください。●

- (1) 発表者に注目する態度や姿勢を意識させる
- (2) 教室は間違えてもいい場所、自分の思いを伝えることが価値があるという雰囲気を作る
- (3) 大きな拍手で賞賛しよう。冷やかしかやからかいは、絶対NG

キャリア教育リーフレットシリーズ

沖縄県キャリア教育応援サイト

検索してチャレンジしよう。すごい教材ですよ！

- 最新情報
- 自身の活動紹介
- キャリア教育リーフレットシリーズ
- 【R4】中高キャリア地区講座実践事例動画
- キャリア教育講座
- 生涯キャリア教育の施設案内
- 生涯キャリア教育
- 生涯キャリア教育センターの取組
- NIE推進行政推進人材養成支援制度
- キャリア教育2021
- 職業小学校教育事例①
- 職業小学校教育事例②
- 職業小学校教育事例③

出典：沖縄県キャリア教育応援サイト⁷⁾

キャリア教育リーフレットシリーズ

10種類あるよ

キャリア教育リーフレットシリーズ

全国の情報が手に入る
文部科学省
国立教育政策研究所が発行
全国の取組みの実践事例。
たくさんあるよ！これは、必見！！
見るか見ないかで人生のターニング
ポイントになるかも

文部科学省
国立教育政策研究所
NIER
National Institute for Educational Policy Research

〈編集・発行〉生涯職業 職業指導研究センター 令和4年6月
TEL: 03-6733-6962 FAX: 03-6733-6967
URL: https://www.nier.go.jp/O4_kerkyu_jinmei/qv03-0930.html

出典：キャリア教育リーフレットシリーズ¹²⁾

【R4】中高キャリア地区講座実践事例動画

教職員対象

令和4年度中学校・高等学校におけるキャリア教育地区講座
首里東高校のキャリア教育について

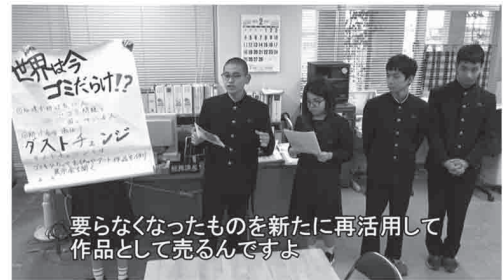
【実践動画】首里東高校
9分12秒

【資料】首里東高校

7回目（抜粋）※7回以降はグループワーク

グループワークでチャレンジ
探究学習ってどんな感じ？

プレゼン能力が大きく変容する！



ゴミをアートに〜エコスタック2018全国大会 寄宮中学校初出場〜

2018年 教育長に表敬訪問してプレゼンした動画を見てみよう！

出典：那覇市役所公式 Facebook¹¹⁾

なぜ、この授業（講義）を行うか

- ・これから訪れる
予測困難な社会をたくましく生き抜く力を育成
→ 子供に身につけさせたい力

- ・伝える力を育成することで気づき、考え、行動する
力が身につけやすい（自信、勇気、チャレンジ）
→ 現在の子供が苦手なこと
やってやるぜ！
沖大生！



先生の役割 → こどもたちの伴走者
先生は知識を教えるのではなく、生徒の主体的な学び
を引き出すサポーター→「ファシリテーター」

1 信じる

一人一人に可能性 飛躍的な成長
学力では計れない力（非認知能力）

2 感じる

小さな変化 前向きな姿勢 ナイスアイデア
先生は見逃さない、具体的な言葉で承認
→ いいね すばらしい さすがだ。

3 待つ

辛抱強く待つ 心のひらめきは突然やってくる
学びや成長は起こるべき時に起こる
→ あきらめない 粘り強さ

4 一緒にいる

いつでも一緒にいてくれる人 見捨てない人
先生が子供目線で楽しむことがポイント

9 回目（抜粋）

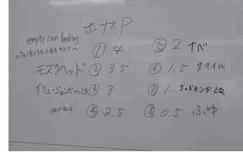
課題の発表

- 本当にやりたい卒業式
- 学校を世界中の人に知ってもらおう
- 体育館を使って一億円稼ぐ方法
- 全校生徒で一億円稼ぐ方法
- 学校を日本で一番有名にする方法
- 学校をギネスブックに載せる方法
- 日本一面白い学校を作る方法
- 日本で唯一の部活を作れ
- テストなしで成績を上げる方法
- 屋上を使って生徒の幸福度をアップせよ
- 校舎をテーマに沿ってデコレーション計画
- 自分たちの学校を地域一番の観光名所にするには
- 不登校の生徒が来なくなる学校
- スマホを使って学力アップ
- 世界中の10代が一緒に取り組む夢のプロジェクト



10回目（抜粋）

今日もグループワーク形式



ステップ3 初めてのプレゼンテーション

①今日の活動内容について

チームごとに作成した「プレゼンシート①②③」を使って発表をします。聴いている人はプレゼンテーション評価シートを記入します。プレゼンテーション評価シートは、プレゼン後に発表チームに渡すものです。最後にクラスグランプリを決めます。

評価のポイント→ 発表の質が高いことはありません。

- 取り組む中で、話し合いが活発に出来るようになること
- おとなしい生徒が自分の考えを言えること
- 具体的なアイデアが出るようになること
- 提案を作り上げられるようになること
- 提案を声に出してわかりやすく発表できるようになること
- チームとしての共感や相互理解、学び合いの芽が見えること
そういった生徒の変化や成長を、ぜひ承認、評価してあげてください。



- 本当にやりたい卒業式
- 学校を世界中の人に知ってもらおう
- 全校生徒で一億円稼ぐ方法
- 学校を日本で一番有名にする方法
- 学校をギネスブックに載せる方法
- 日本で唯一の部活を作れ
- テストなしで成績を上げる方法
- 不登校の生徒が来なくなる学校

- ナベ
- モズクヘッド
- イリュージョンポール改
- はびねす
- ゴッドハンド改
- empty can kecking
- ふゆ
- スマイル

これまでの皆さんの様子を見てみよう
動画スタート！

評価のポイント→ 発表の質が高いことはありません。

- 取り組む中で、話し合いが活発に出来るようになること
- おとなしい生徒が自分の考えを言えること
- 具体的なアイデアが出るようになること
- 提案を作り上げられるようになること
- 提案を声に出してわかりやすく発表できるようになること
- チームとしての共感や相互理解、学び合いの芽が見えること
そういった生徒の変化や成長を、ぜひ承認、評価してあげてください。



評価のポイント

この段階ではプレゼンの仕方や伝え方のうまさはあまり重要ではありません。

短い時間で企画を作り上げられたことを承認してあげてください。

ステップ3 初めてのプレゼンテーション

⑤学習のまとめ

初めてのプレゼンテーションはどうでしたか？何か印象に残ったことはありますか？どんなことが大変でしたか？どの取り組みが楽しかったですか？ここまでの振り返りにまとめてみよう！

「今日のひとこと」のスペースを使って、このプログラムを受けたことで出来るようになったこと、新たな発見、感じたことなどを自由に振り返り、言葉にまとめてみよう
ここまでの取り組みをまとめる形で、生徒たちの取り組みを労い、先生の感じたことを言葉にして伝えましょう。

その前におさらい！

「かふやみ」分類の例			
かかわる力 <small>(人間関係構築・社会参加能力)</small>	ふり返る力 <small>(自己理解・自己管理能力)</small>	やりぬく力 <small>(課題別応答能力)</small>	みとおす力 <small>(キャリアプランニング能力)</small>
M 多様な集団の中で他者とかかわる力	C 行動を振り返り、改善につなげる力	T 問題を発見できる力(問いを立てる力)	J 将来を想像する力
K 進んで考えや気持ちを伝え合う力	E 自己の役割を理解する力	N 計画を実行する力	F 自分の目標を設定する力
P 人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	I 情報・助言を正しく理解し、自分を見つける力	A 課題に対応した計画を立案する力	S 目標設定のために計画を立てる力
B 協力する力	G 自分の良いところを見つける力	O 発想(想像)する力	L 立てた目標を確認し次につなげる力
H 社会に参画し、社会を積極的に形成する力		Q 間違いや他人との違いをおそれない力	R 自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力
		D 最後までねばり強くやりぬく力	

課題の発表

- 1 empty can kicking 234 ④
- 2 モズクヘッド 250 ①
- 3 イリュージョンポール改 201 ⑦
- 4 はびねす 210 ⑥
- 5 ナベ 192 ⑧
- 6 スマイル 240 ③
- 7 ゴッドハンド改 241 ②
- 8 ふゆ 220 ⑤

11回目 (抜粋)

STEP 5 困っている人を助ける

困っている人の気持ちになりきると、その人が何に困っているのかが見えてきます。どうすれば困っている人を助けて笑顔にできるのか考えてみよう！

各グループの困っている人

- 妊婦さん・・・ ナベ→キムチ鍋
- かずまくん・・・ モズクヘッド
- 喫煙者・・・ イリュージョンポール改
- 貧困・家庭環境・・・ はびねず→ヒゲ中田
- 目標のない人・・・ ゴッドハンド改
- くせ毛で困っている・・・ empty can kecking
- 人間関係・・・ ふゆ～
- 家庭環境・・・ スマイル

前回 ステップ4

【課題認識・理解力】
取組の内容を適切に**把握**する

学習目標

【コミュニケーション力】
チームでの活動を**スムーズにスタート**させる



レベルUP

今回ステップ5

【課題処理・遂行力】
手順を追って**形をつくりあげる**

学習目標

【コミュニケーション力】
チームで**協力してたくさんのアイデア**を出す

キャリア教育の4つの力=「かふやみ」の定義！

②助ける方法を考える

2) チームで共有 (5分) → 1) +2) で10分
【グループワーク】

リーダーから順番に、付箋に書いたものを読みながら、模造紙に貼っていきます。自分が書いた内容と似た付箋だったら、自分の順番でなくてもその場で出そう。

内容の近いものは近くに貼ること。思いついたことがあれば、発表中でも遠慮せずどんどん貼っていきこう。



12回目 (抜粋)

ステップ5の様子！動画スタート！



STEP 6 高め合うプレゼンテーション

チームで考えた企画をとりのチームにプレゼンしよう。よりよい企画にするため勇気を持って伝えよう！

前回 ステップ5

【課題処理・遂行力】
手順を追って**形をつくりあげる**

学習目標

【コミュニケーション力】
チームで**協力してたくさんのアイデア**を出す

↓

レベルUP

今回ステップ6

【情報収集・活用力】
ペアのチームからの**コメントや質問から多くのことを学ぶ**

【プレゼンテーション力】
聞き手を意識した報告・発表をする

キャリア教育の4つの力=「かふやみ」の定義！

②プレゼンの準備をしよう 10分

誰がどこを話すのか、時間をかけて説明すべきところはどこか、**3分間で伝える**ためにはどうすればいいか、話し合っ進めていこう。この時間でリハーサルをしてみよう。

③プレゼンテーション 20分

2チームでペアとなり、発表をし合います

ワンポイントアドバイス→ 先生の目線でも進めてみよう

〈プレゼンのしかた〉

1. 1チーム目がプレゼンをする。
2. 相手チームは付箋にコメントを記入す。
コメントの項目は、「①良かった点」、「②質問」
①、②それぞれ別の付箋に書きましよう。
3. プレゼンが終了したら、相手チームは付箋に記入してある質問をする。
4. 質問が終わったら交代する。
5. 両チームとも終わったら、リーダーがメンバーの付箋を集めて、ワークシート「コメントシート①」に貼る。
リーダー同士はそのコメントシート①を交換し合います。

同色付箋Aの色

同色付箋Bの色

13回目（抜粋）

県内で活躍する
スペシャリストの紹介



出典：RBC ニュース¹⁴⁾

ステップ6スペシャルグループワーク形式



STEP 6スペシャル
高め合うプレゼンテーション

チームで考えた企画を前回と違うチームにプレゼンしよう。よりよい企画にするため勇気を持って伝えよう！



④チームで振り返る 5分

相手チームからもらった「コメントシート①」をみんなで回し読みしよう。「コメントシート①」を読んで、どう感じたかを話し合ってみよう。

ワンポイントアドバイス→ 先生の見線でも進めてみよう

コメントは相手のチームの企画をより深めるためのヒントとなります。特に「② 質問」に関しては、様々な観点で質問をすることで、企画はどんどん良くなります。少しでも疑問に感じたり、気になることがあったらどんな些細なことでもどんどん書いていくようアドバイスしてください。

14回目（抜粋）

ステップ7 グループワーク形式



学習環境

普通教室



使用教材

- ・ 動画「伝えきる」
- ・ 模造紙（各チーム2枚ずつ）
- ・ マジック（色付きのペン）
- ・ 前回まで活用したワークシートや付箋紙
- ・ タイマー（時間管理用）

前回ステップ6α

学習目標

【情報収集・活用力】

ペアのチームからのコメントや質問から多くのことを学ぶ
【プレゼンテーション力】
聞き手を意識した報告・発表をする



レベルUP

ステップ7

学習目標

【課題認識・理解力】

課題を認識し必要な準備をする

【プレゼンテーション力】

必要なプレゼンスキルを身につける

キャリア教育の4つの力＝「かふやみ」の定義！

②動画「伝えきる」を見る 10分

TEDとは（Technology Entertainment Design）の略であり、さまざまな国の人たちが、さまざまなテーマによってカンファレンスをするというものです。

テーマによってプレゼンをするのは科学者や研究者その専門家から起業家など、非常に幅が広いです。

アメリカ合衆国のニューヨーク市に本部があるが、カナダのバンクーバーで毎年大規模なカンファレンスが催されています。

アンジェラ・リー・ダックワース
「成功のカギは、やり抜く力」

③プレゼンにまとめる 20分

プレゼンのためのポスター（模造紙）と原稿をつくります。

ワンポイントアドバイス→ 先生を目線でも進めてみよう

ポスター：プレゼンに使用するポスターを模造紙で作成します。初めて見る人にもわかりやすいように作成しよう。模造紙は各チーム最大2枚まで。

原稿：プレゼンの原稿を書きます。重要なポイント、話す時の注意点等もメモしておこう。発表する担当を決め、担当者ごとに手分けをして原稿を書いてOK。

■ポスター(模造紙)のつくり方

- 見やすさ
 - 文字の大きさや色などに気をつけよう。
 - 改行したり、簡条書きにすると見やすくなります。
 - 遠くの人にも見えるか確認しておこう。
 - 見えにくい場合は、簡単な資料を配るなど工夫してみるのもOK

- わかりやすさ
 - 内容を整理してメリハリをつける。情報が多すぎると伝わりにくい
 - グラフや写真・イラストなど入れて表現してもOK

- オリジナリティのあるチームならではの工夫
 - 自分たちらしい表現、独自のポスターを作ろう

■原稿のつくり方

- 誰にでもわかる言葉で！
 - 一部の人だけにしかわからない専門用語は、聴いている人に伝わりづらいうやさしい言葉に置き換えたり、説明を加えたりしよう。

- 組み立てを考える
 - 同じ内容でも話す順番によって、聞く人の受け取り方がかわります。プレゼンの構成や組み立てを工夫して、一番伝えたいことが相手に届く発表をしよう

- 発表時間に気をつける
 - プレゼン時間は3分。原稿はゆっくり読もう
 - 時間を計って試そう
 - 見ればわかるところは省き、大事な所が伝わるように



15回目 (抜粋)

ファイナル 思いを伝えるプレゼンテーション

いよいよファイナル。
すべてを出し切って、自分たちの思いをみんなに伝えよう！



- | | |
|----------------|-----|
| ①今日の日の活動内容について | 5分 |
| ②本番準備 | 10分 |
| ③プレゼン前半 | 15分 |
| ④プレゼン後半 | 15分 |
| ⑤グランプリ決定 | 5分 |
| ⑥ワークショップ | 10分 |
| ⑦振り返り | 10分 |

ステップ7

学習
目標

【課題認識・理解力】
課題を認識し必要な準備をする
【プレゼンテーション力】
必要なプレゼンスキルを身につける



レベルUP

ファイナル

学習
目標

【プレゼンテーション力】
自信を持ってプレゼンをする
【課題認識・理解力】
真実にプレゼンを聞き内容を理解する
【コミットメント力】
さまざまな体験を受け止めて自分の糧にする
【プレゼンテーション力】
自分の思いや考えを自由に発言する

キャリア教育の4つの方=「かふやみ」の定義！

学習
環境



使用
教材

- 作成した「ポスターおよび原稿」付箋
- マジックまたはサインペン
- 配布プリント「コメントシート③」
- 時計（時間管理用）

③プレゼン前半 15分

・発表時間前に、ポスターの隣にコメントシート③を貼ります。これは、発表を聞いてくれた人がコメントを書いた付箋を貼るための重要なシートです。
 ・前半グループが発表前に行くことが「呼び込み」。自分たちの発表を一人でも多くの人に聞いてもらえるよう、積極的に声をかけて呼び込もう。
 ・発表時間は15分。その中で発表するチャンスは3回。3分間で発表し、2分間で発表を聞いた人からコメントをもらいます。
 ・2回目の開始の合図があったら、2回目の発表を同じように始めてください。3回目も同様に行います。
 ・後半グループは、付箋10枚～15枚とペンを持って、他のチームの発表を聞きに行きます。各チームが用意したコメントシート③に貼っていきこう。付箋には、発表を聞きながら思ったことや感想をどんどん書いて最後まで発表を聞いたら、感想や意見を直接伝えよう。

④プレゼン後半 15分

後半も、前半と同じように行います。前半グループは、聴いた人からもらったコメントを後半グループに伝え、どんどんよりよい発表にしていこう。

後半グループは、聴いてきた発表の中で、自分達に活かせるものがあれば、参考に見よう。アドリブ、アレンジOK!

④グランプリの決定 5分

最も良いプレゼンをしたとみんなが思ったチームがクラスグランプリです。

挙手や投票などの方法でクラスグランプリを決めよう。

⑤ワークショップ 10分

いよいよ最後です。3人～4人のグループに分かれましょう

①「私はあなたが大好きです」というワークショップをします。一人づつ褒め合いをします
 ・「私はあなたが大好きです。なぜなら～」
 ※～の部分はその人の良いところ、頑張ったところを存分に褒めてください。AさんをB、C、Dさんと次々に褒めていきます。これを繰り返す。
 ※褒めた後は全員で拍手をしてください

②褒められた人から順番に皆に気持ちを伝えましょう

(2) 学生の報告書、振り返り等

報告書 1

私が本講義で学んだことは3点ございます。一点目は、本講義で実践したグループワークの中で自分の意見や、他人の意見を尊重することによって、互いを認め合うことができるということです。意見を尊重することによってそれぞれの自己存在感が表れグループ全体が良い方向に進んでいくのではないかと考えることができた。

二つ目は、自分の意見が合ってるか間違っているか関係なしに、思ったことをグループ内で言うことが大切だと考えることができました。何も話さないでグループワークが進行しないよりは何かの意見を言うことでグループが進行することができると思った。グループワークはそれぞれの意見をまとめることが大前提のものだと思うので、それに意見をしなければグループワーク学習が何も意味をなさなくなってしまうのではないかと考えることができた。グループワークでは、自分の意見は間違えているのではないかなど考えるのではなく、とりあえず言うてみるというのが大切なことなのではないかと考えることができた。

三つ目は、発表の時は原稿用紙をずっと見ているのではなく、発表する相手の方に視線を向けることが自分たちが伝えたいことを伝える1番の方法なのではないかと考えることができた。これは、下を向きながら話していると、自信がないように相手に感じられてしまうのでプレゼンテーションでは、なるべく前を向いて話すことで言葉が前向きに伝わるのではないかと考えることができた。さらに、これらを実践することで自分自身の自己存在感が増すのに加えて、グループ内の信頼関係が大きくなるのではないかと考えることができた。

最後に、本講義を通して、グループワークをすることに慣れて人前で発表することに慣れることができた。自分自身が教師に

なったら本講義で学んだことを活かしながらグループワークを実践してクラス全体が協力し合えるようなクラス作りをしていきたいなと思うことができました。そうすることで、互いを認め合うことができる活気のあるクラスができるのではないかと考えました。

経法商学科4年男子学生

報告書2

この講義を通して、キャリア教育について学んだ。私は、キャリア教育とは、自分の進路について考えたり、職場体験をしたりすることだと思っていたが、この講義を受けて、それだけがキャリア教育ではないということを知った。キャリア教育とは、将来社会にでたときに生徒に身につけてほしい能力を教育することであると考えた。キャリア教育で生徒に身につけてほしい能力は、関わる力、振り返る力、やり抜く力、見通す力であるということが分かった。これら4つの能力は、キャリアパスポートや探求活動で身につけることができるということが分かった。

まずキャリアパスポートでは、振り返る力、見通す力の2つの能力を身につけることができる。講義内で、中学生のころを思い出しながら、キャリアパスポートを書いた時にそれを感じた。私は、思い出しながらいっしょに書いたので少し難しかったが、実際に中学生が1年生、2年生、3年生と、一年ごとに行い3年間を振り返るとより明確に、できるようになったことや成長したことを実感できるのではないかと感じた。また、生徒が一人でキャリアパスポートに記入して終わるのではなく、教師や保護者と共有することができ、教師は生徒理解を深められ、保護者も子どもの学校での様子や、子どもが学校で何を学んでいるのかを知ることができる。保護者や教師からのメッセージをみて、生徒はもっと頑張ろうと思えると考えた。

次に、探究活動では、関わる力、振り返る力、やり抜く力の3つの能力を身につけることができる。実は、私は最初、この活動

とキャリア教育がどう関わっているのかよくわからなかった。しかし、グループで話し合いをし、アイデアを出し合っているうちに、初対面だったグループの人と話せるようになり、最後の授業では意見をどんどん出せるようになっていて、関わる力を身につけることができたのかなと感じた。私たちのグループは、1回目の探究活動のテーマは「テストなしで成績を上げる方法」、2回目のテーマは「人間関係に困っている人を助ける」である。2つとも難しい課題で、特に1つ目が難しかった。「なんでこのテーマにしたんだろう」と後悔しそうになったけど、みんなで考えて、最後に発表することが出来て、達成感を得ることができ、これがやり抜く力だと思った。グループのみんなでアイデアを出し合い、初対面だけど、いい案がでると盛り上がり、よりいいアイデアがでたりしてとても楽しかった。いいアイデアを出すためには、活動を始める前にいつも言っていた、「他人の意見を否定しない」、「自分の意見を否定しない」、「なんでも言うてみる」という、3つがとても大事だと実感した。教師になって、生徒に話し合い活動をしてもらうときに、この3つを伝えることがとても大切だと思った。

国際コミュニケーション学科3年女子学生

報告書3

キャリア教育。私はこの言葉を聞いて最初にイメージとして思い浮かんだことは、児童生徒の前で様々な職種の大人がそれぞれの職種について語るということである。そのことから、私はこのキャリア教育の理論と方法を受講するまでキャリア教育は、児童生徒の将来の夢の自己決定を支援するものだと考えていた。しかし、この講義を受講していく中で、私が持っていたキャリア教育のイメージが変わった。本講義では、児童生徒の人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力からなる四つの能力、つまり、「か・ふ・や・み」を育成するために必要な理論と方法を学

んだ。この講義で実際に行った「困った人を助けるために行うこと」を考え、発表するグループ活動はこの「か・ふ・や・み」を育成するためにとても必要な活動であると学んだ。「か」の力を育成するためにグループを作り、グループ活動を通して人間関係形成について学んでいく。「ふ」の力を育成するため、毎講義ごとに動画を活用して行ったことを視覚的に振り返り、児童生徒が行ったことを確認する。「や」の力を育成するために、一つの大きなテーマである「困っている人を助ける方法」を提示し、毎講義ごとにこのテーマを解決するためのスモールステップを学び、課題に対してどのようなアプローチをすればよいのかを学んでいく。最後に、「み」の力を育成するために、次回の講義で行うことを先に理解させることで、どのように進めていけばよいのかを知り、今後のやるべきことを考える。このように、私が実際に行ったグループ活動では「か・ふ・や・み」の四つの力を育成することにつながる。私はこのキャリア教育の理論と方法の講義で、実際に学校現場で行っているキャリア教育を体験したことはとても良かったと考える。理由はもし、この講義を受講していなくて教師になり、キャリア教育を行っていくとしたら、何から行うべきなのか、どのように指導を進めていけばよいのかなどの疑問が出て、より良いキャリア教育を行うことができなくなるからである。この講義を通して、キャリア教育の指導の方法を学び、キャリア教育の進め方を見通すことができたことから、児童生徒にとってより良いキャリア教育の繋がると考える。私もこの講義で体験したことを軸にして、児童生徒により良いキャリア教育を行っていききたい。

この講義で行ったグループ活動でとても印象に残ったことは、仲盛先生の学生に対する声掛けである。学生一人一人の良い点を見つけ、それを学生に伝えていた。その声掛けによって、学生は「私自身をしっかりと見ている」と感じ、さらに先生に声掛けをしてもらおうと考え、努力する。このサイクルは学生

の自己肯定感や自己有用感の向上につながると思う。自己肯定感や自己有用感が高まることで、より良い授業、より良い学級経営、より良い学校につながり、学校が児童生徒にとって居心地が良い場所になって今の学校現場で問題となっているいじめ問題や不登校の問題の解決につながると思う。このように、教師の積極的な声掛けが児童生徒にとってとても大切なことになる。私も教師になったら、キャリア教育ではもちろん、教育活動全体で児童生徒に対して積極的な声掛けを行っていき、児童生徒が「学校に行きたい」と思えるようにしていきたい。

国際コミュニケーション学科3年女子学生

報告書4

授業前半では、主に座学を中心に、キャリア教育のあるべき姿や、沖縄県が掲げるキャリア教育目標について深く学んだ。授業内では、リカレント教育や、VUCAなど、今後教育現場で注目されていく事項について学んだほか、実際に中学校で導入されているキャリアパスポートの作成にも取り組んだ。キャリアパスポートは、中学三年間の自分自身を振り返り、自身が成長した分野、または今後生かしたい自身の長所についてまとめたもので、画期的だと思ったのはそれをクラス内だけでなく、保護者にも共有するというものだった。自身の目標や成長についてまとめることは、私が中学生だったときにもやったことはあるが、クラス内で共有するのみで、自身の良さを生かすためにどうすべきなのかや、保護者にまで共有はしなかったので、自分自身の振り返りにはなったが、そこから何か今後に発展させるような意図のものではなかった。しかし、現在採用されているキャリアパスポートでは、これまでの振り返りだけではなく、さらなる成長を目指したものであるため、自分の思う自分の良さを見つけ出し自己発展につなげようとしているのだろうと思う。そのうえで、クラス内だけでなく、保護者からもメッセージをもらうことで、第三

者から見た自分を見つめることができ、自分でも見つけられない自分の良さを指摘してもらえたなら、新たな自分の良さを武器に成長のチャンスを見いだせるという点において、非常に画期的な取り組みだと思えた。沖縄県教育委員会では「かふやみ」と称してキャリア教育における生徒に身に着けてほしい4つの能力を掲げている。大きく4つに分類されているものの、内容は多岐にわたり、4項目の内容を振り分けるグループワークも行ったが、分類が難しいものも多く、苦戦した思い出と、キャリア教育が掲げる柱は大きく4つと言えど、その内容は濃く、私たちが受けてきたキャリア教育も、覚えている限りでは、この項目にいくつか当てはまるものもあって、実際に学校現場で運用されているものなのだと実感することができた。他にも、授業内で何回かグループワークを行い、学級目標や、スローガンについて考えるという体験をした。小中の間、進級すると決まってクラス内で決めていた学級漢字や、スローガンについて、実際に小中学生だったときは、当たり前前に決めるものとして、話し合いに参加していた思い出もあるが、先生によっては、自身で学級漢字を決めて張り出している場合もあった。決定の経緯は様々だったが、学級内共通のわかりやすい目標やシンボルを設定することで、学級の一体感や団結力を高める効果があったのだとわかった。文化祭や体育祭などで着用されるクラTも学級内の一体感や団結力という点については、同じような効果を持つのかもしいと思った。キャリア教育というのは、単純に生徒の将来設計にかかわるものとはばかり思っていたが、私が思っていた以上に範囲が広く、学級内のスローガンから、生徒一人一人の自己存在感や自己有用感などといった、思春期の精神が未熟な生徒たちの心に寄り添った教育のことも指すのだと理解することができた。

後半の授業では、主にグループ学習に取り組んだ。計二回の課題にグループで取り組み、問題を最大限解決できるように、現実的には

どんなにあり得ないような解決方法も取り入れて、プレゼン内容を作っていくのはとても楽しかった。最初はグループのメンバーも学部もバラバラでぎこちない雰囲気だったけれど、回数をこなしていくうちに打ち解けて、自然な空気でワークを行えるようになってよかったと思う。プレゼンの後のグループのメンバー同士の褒めあいも、最後まで気恥ずかしかったのは変わりなかったけれど、相手が自分の頑張りを見ていてくれたことの嬉しさや、頑張っただけよかったと思える達成感があって、教師の目線から見ると、普段口にしない相手への印象を言語化して伝えることで、グループとしての一体感や、生徒一人一人のグループ活動に対する自己有用感を感じさせる目的があるのかもしいと思った。また、授業の最初に毎回全体で復唱する「他人の意見を否定しない。自分の意見を否定しない。何でも言ってみる。」についても、毎時間全体で確認することで、自信をもって自分の意見をグループ内に共有する機会の提供や、他人の意見を実現不可能などを理由に否定的に考えさせないことで、突飛な意見を工夫して取り入れ、グループ内の意見として昇華させられるようになるなど、様々なメリットや、意味が込められたものなのだろうと理解することができた。他にも、実際に授業内で2回異なったスタイルのプレゼンテーションを行った際にも、それぞれのメリットや違いについても考えることができた。1回目のプレゼンテーションは、全体の前で1グループずつ発表していく形式だった。この発表形式だと、発表回数は1回で済むのがメリットだと思うが、大人数のため、聞く側の質問が出づらいことや、人前に出ることが得意でない生徒には向いていないのかもしいと思った。2回目のプレゼンテーションは、バザーのように教室の各所で各グループがポスターを張り出し、同時にプレゼンテーションを行う形式だった。すべてのグループが一斉に発表をするため、全体的な発表時間の短縮や、発表を複数回こなすことで、分かりづら

い説明を修正することで、より伝わりやすいプレゼンテーションを行うことができる点、また、一回の発表に対する聞き手は少数であるため、質問を受けやすく、相手も理解しやすいように説明の補足などを行うことができる等といった点がメリットであるのに対して、各所で一斉に発表が始まるため、声が聞き取りづらいことなどがデメリットになっていると思った。私個人としては、聞き手の質問に一つ一つ丁寧に答えることのできる2回目の発表形式が自分自身やっけていて楽しいいうえに、好みだと思えた。教員になれば、授業でグループワークをすることもあると思うけれど、いかに生徒が自分の意見に自信をもって発表できるかどうかや、課題の性質に合わせたプレゼン方法の選択がより良いグループワークを促すための鍵になってくるのだということ意識できるようにしたいと思う。

経法商学科4年女子学生

6 実践の成果

学生の講義アンケートは、以下の通り

質問1 授業に熱意を持って取り組んだ。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	2
非常にそう思う	2

質問2 予習、復習、課題などをした。

ほとんどしなかった	2
時々した	2
30分位	0
1時間位	0
2時間以上	0

質問3 履修の際シラバスを参考にした。

全くそう思わない	1
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	0
非常にそう思う	3

質問4 遠隔授業や課題に取り組めたか。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	2
非常にそう思う	2

質問5 この授業を何回欠席したか。

4回以上	0	1回	0
3回	0	ない	3
2回	1		

質問6 30分以上の遅刻、早退があった。

4回以上	0	1回	0
3回	0	ない	4
2回	0		

質問7 時間通りに始まり、終わった。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	0
非常にそう思う	4

質問8 教員の熱意が感じられた。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	0
非常にそう思う	4

質問9 この授業に興味を持てた。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0
そう思う	2
非常にそう思う	2

質問10 この授業の内容が理解できた。

全くそう思わない	0
そう思わない	0
どちらとも言えない	0

そう思う	1	質問16 担当教員から遠隔授業の方法や課題について連絡があった.	
非常にそう思う	3	全く連絡がなかった	0
質問11 この授業の進め方(授業のスピード等)は適切であったか.		連絡がある時とない時はあった	0
全くそう思わない	0	どちらとも言えない	2
そう思わない	0	遅れることはあったが、連絡はあった	0
どちらとも言えない	0	毎週欠かさずあった	2
そう思う	0	質問17 提出した課題について、担当教員からコメントや振り返りがあった.	
非常にそう思う	4	何も振り返り等がなかった	0
質問12 この授業から多くのことを学ぶことができた.		ほとんど振り返り等がなかった	0
全くそう思わない	0	どちらとも言えない	2
そう思わない	0	毎回ではないが振り返り等があった	0
どちらとも言えない	0	毎回振り返り等があった	2
そう思う	1	質問18 総合的に判断して、この授業に満足している.	
非常にそう思う	3	全くそう思わない	0
質問13 課題・試験・評価の仕方などについて、はっきりと説明がなされた.		そう思わない	0
全くそう思わない	0	どちらとも言えない	0
そう思わない	0	そう思う	0
どちらとも言えない	0	非常にそう思う	4
そう思う	0	質問19 この授業で良かった点、改善点、遠隔授業で困ったこと等があれば記入してください.	
非常にそう思う	4	・グループ活動が多く、和気あいあいと講義に取り組むことができた。キャリア教育について、説明が非常に丁寧で大まかな内容を理解することができた.	
質問14 教材(テキスト・プリント等)や機器は有効に使用されていた.		・先生の熱意が非常にあり、クラスの雰囲気をよくしてくれた.	
全くそう思わない	0	考 察	
そう思わない	0	本アンケートは講義(演習を含む)や教育環境をよりよく改善し、学生の満足度を高めていくことを目指して実施するものであるが、アンケートへの回答が任意との事で講義の中では呼びかけをしておらず、4人のみの回答となった。ほとんどが肯定的な内容であったが気になったことが2点あった。一点	
どちらとも言えない	0		
そう思う	0		
非常にそう思う	4		

目は、質問2のこの授業のために次回の予習または復習、課題などの質問に対し、ほとんどしていない状況が判明した。今後改善する方法を模索する必要がある。二点目は、質問16担当教員から遠隔授業の方法や課題について連絡があった。の質問に対して今回は、対面式を実施しZOOM等の活用がなかったので検討していきたい。

7 今後の課題

90分の時間、学生にとって有益となる内容の講義を模索しながら実施したが、座学スタイルで集中して実施する創意工夫の重要性を痛感している。

また冒頭に掲げた「これからの時代に求められる人材」において実施方法に課題が残ると考える。今後はこの課題を解決していくための手立てを検討していきたい。

(1) 中教審の「次期教育振興基本計画」の2つのコンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」と講義内容の連動性。

特に利他性と関連させた指導支援方法の精度を上げる必要がある。

(2) 「少子高齢化での社会形成」「災害や感染症等の不測の社会的危機との遭遇」「高度情報化社会での知識の刷新」「ICT能力の修得、外国の人々を含め多様な他者との共生と協働」等、乗り越えていくべき課題を解決すべき力と講義内容との関連性をもっと丁寧に伝える必要がある。

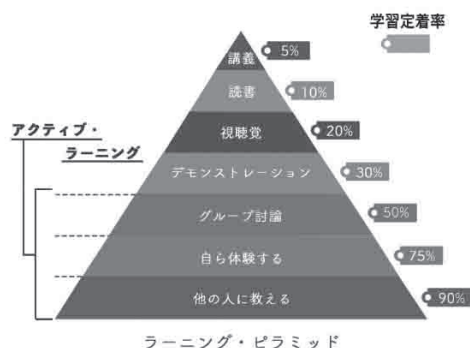
具体的には、以下のキーワードと講義の内容をリンクさせることである。

- 「主体性」「リーダーシップ」「創造力」
- 「論理的思考力」「表現力」「チームワーク」
- 「情報活用能力」「試行錯誤を続ける力」
- 「課題発見・解決力」
- 「人を動かし巻き込む力」
- 「0から価値を生み出す力」
- 「感情をコントロールする力」等

日常の講義内容のどの部分に位置してい

るのかを学生に理解してもらい、児童生徒への指導支援のきっかけ作りを図っていく講義の創意工夫が求められる。

どの講義を任せられたとしても、その根拠となる国や県の施策を十分に把握し、学生にしっかりと「伝える力」を身につけるよう努力をしていきたいと思う。特に「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」より、利他性の発揮「誰かの笑顔のために、自ら気づき考え行動する人材育成」、生徒指導提要で示された「生徒指導4つのポイント」に焦点を当てた楽しくてわかりやすい講義を研究していきたい。



出典 アメリカ国立訓練研究所, (National Training Laboratories)¹⁰⁾

具体的には、ラーニング・ピラミッドを本とし、アクティブラーニングの自ら体験、他の人に教える方法を身につけさせることを目標に人材育成に邁進する所存である。

8 参考・引用資料

- 1) 文部科学省, 次期教育振興基本計画について(答申)概要(中教審第241号), https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_oseisk02-000028073_2.pdf (閲覧日令和5年4月14日)
- 2) 文部科学省, 次期教育振興基本計画について(答申)(中教審第241号), https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1412985_00005.htm (閲覧日令和5年4月14日)

- 3) 文部科学省, 生徒指導提要 (改訂版),
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
(閲覧日令和5年4月14日)
- 4) 文部科学省, 生徒指導提要 (改訂版),
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm
(閲覧日令和5年4月14日)
- 5) 沖縄県教育委員会HP, 義務教育課ポータルサイト,
<https://sites.google.com/view/okinawa-gakkougaizen/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?pli=1&authuser=1>
(閲覧日令和5年4月21日)
- 6) 沖縄県教育委員会HP, 義務教育課ポータルサイト, 県教育長あいさつ,
<https://sites.google.com/view/okinawa-gakkougaizen/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?pli=1&authuser=1#h.ojdih2o7tf87> (閲覧日令和5年4月21日)
- 7) 沖縄県教育庁義務教育課キャリア教育HP, 沖縄県キャリア教育応援サイト,
<https://sites.google.com/view/okinawa-kyaria/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?authuser=1> (閲覧日令和5年4月21日)
- 8) 教育と探求社・ソーシャルチェンジ,
<https://eduq.jp/for-school/quest/socialchange/> (閲覧日令和5年6月2日)
- 9) アメリカ国立訓練研究所 (National Training Laboratories),
<https://ntl.org/>
(閲覧日令和5年11月30日)
- 10) キャリア教育ラボ,
<https://career-ed-lab.mynavi.jp/career-column/707/> (閲覧日令和5年11月30日)
- 11) 那覇市役所公式Facebook
<https://www.facebook.com/watch/?v=2042788849295191>
(閲覧日令和5年6月2日)
- 12) 沖縄県教育庁義務教育課キャリア教育HP, キャリア教育リーフレットシリーズ,
<https://drive.google.com/drive/folders/1z9PaRY9YTjPu8YYIog4kjGajqrwBUiYc>
(閲覧日令和5年5月26日)
- 13) 文部科学省国立教育政策研究所,
<https://www.nier.go.jp/>
(閲覧日令和5年5月26日)
- 14) RBCニュース (令和5年5月27日放送)
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rbc/470538?display=1>
(閲覧日令和5年7月11日)